

月刊 新翔タイムズ

第43号 新翔タイムズ 編集室 発行・熊野新聞社

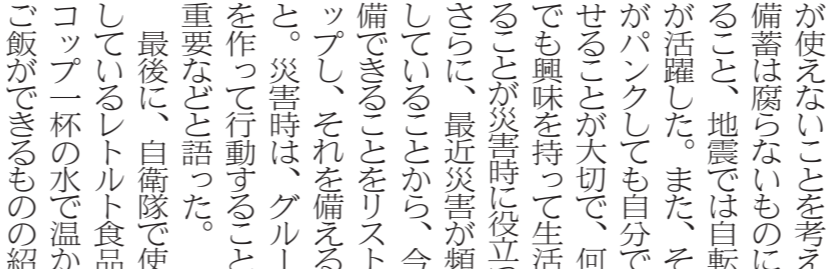
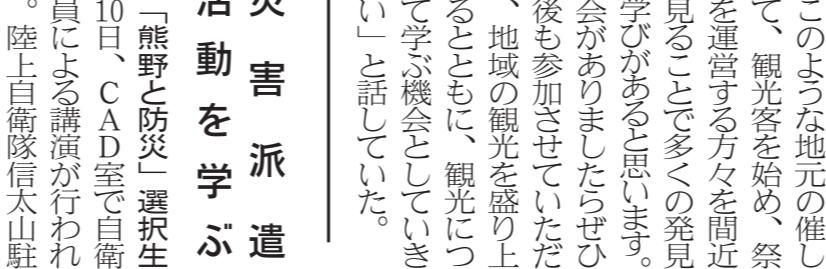
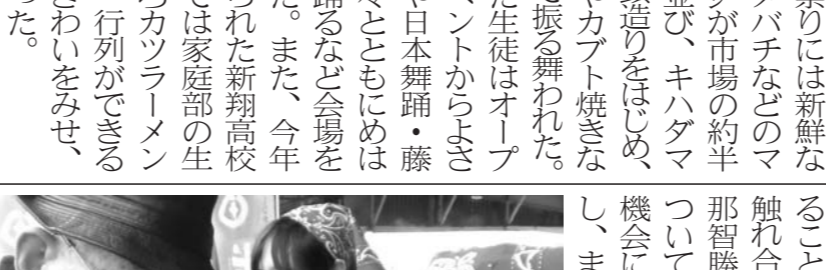
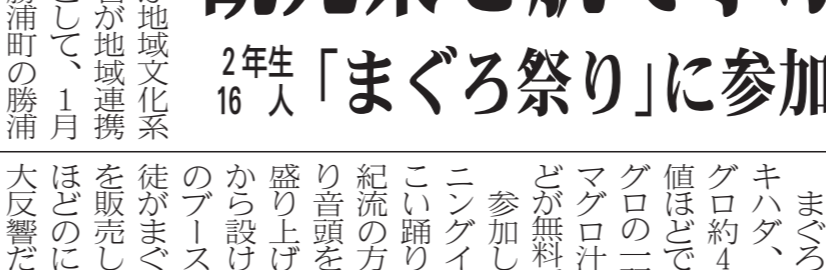
修学旅行でスキー・スノーボードを体験

長野県飯綱高原で1月24日から27日まで修学旅行が実施された。滞在型の体験学習を通じて、集団生活における個人の役割の自覚や協力の精神を養うことやスポーツとしてのスキー・スノーボード研修、雪国の生活を知る等を目的に119名が参加した。

学校を午前7時に出発。途中、岐阜県の世界遺産白川郷に立ち寄り、合掌造りの建物が十数棟、保存・公開されている野外博物館を見学し、その後1時間ほど坂内を散策した。12時間半かけての移動は大変であったが、翌日からのスキー・スノーボードの講習を予定通り実施することができた。

講習初日は、雪が降る中で開校式が始まり、修学旅行委員長の1組前田

2年生、長野県飯綱高原へ



交安への意識高める

3年生対象に講話



10日、キャリア実習室で3年生対象の「交通安全講話四輪」が新宮警察署交通課長、濱地俊規氏を講師に招き行われた。

濱地課長には、6月14日にも全校生徒対象の「交通安全講話」をしてもらい、交通事故で大学生の息子を失った母親の手記を紹介し、その手記から交通安全、命の大切さ、ルールとは何か、幸せとは何を考えさせ、交通安全への意識を高めてもらった。

今回は、昨年の全国の

交通事故による死者が4527名にも上り、そのうち和歌山県で54名が亡くなった。遺族の苦しみ、悲しみは一生埋められないことだ。ちょっとした不注意が人の命を奪う、それが現実である。

車は便利な反面、一歩間違えば凶器にもなる。この内容から話していただき、歩行者、自転車、車、いずれの場合も①規範意識を持って交通安全ルールを守る。②安全意識を常に持つ。この大意識を説いた。

次に、〇×で答える「自転車交通安全問題」を出題してその中で、自転車は、歩行者ではなく軽車両であること、歩道のない道路では道路の左端を走らなければならないこと、

ないこと、自転車は歩道を走れる標識があること。歩行者優先で自転車は車道側を走らなければならないことなどを解説した。

また、罰則として懲役または罰金があり、生徒は改めて交通安全ルールを遵守することの大切さを認識した。

最後に、平成19年12月に小5の娘を朝、小学校に送り出した後、トラックにはねられ交通事故で娘を亡くされたあるタレントさんの手記を紹介された。「明るく元気な娘が普通の子供で、中学校も決まっていた、そんな夢、希望、家族の未来が一瞬のうちに壊される。何の前告もなく、事故は突然やって来る。深い悲しみ、苦

しみはいつまでも癒えない。心に穴が開いたのは、家族だけではない。友人、友人の親、その子に携わってきたすべての人の心が傷ついた。今日もたくさんの方から励ましの言葉をいただいた。残された者にとって怖いのは、娘の死が、交通事故が忘れ去られてしまふこと。第2の死。励まされるのは、「元気になつたか?」という言葉ではない。地域の「2度とこの地域で交通事故を起こさない」という「意識」と「行動」の中に娘は生きていて、生き続けている。そして、その「意識」と「行動」に励まされている。

終わりに、全員で被害者に対し黙とうを捧げ講話を締めくくった。

文芸部

クラブ紹介

文芸部は、アニメを描いたり文章を作ったり冊子を作成したりしてあります。文化祭を活動の発表の場としており、今年の文化祭では部誌として部員の冊子と来客用として数が少なかったですが冊子を配布しました。台風の影響で例年ほど多く作品をつくることができずでしたが、コツコツと各自が書きためたものを一つの形にしていくことで部員との連帯感を持つことができます。興味のある人はぜひ作品を持って部室にきてください。火曜日が活動日になっています。



観光業を肌で学ぶ

2年生「まぐろ祭り」に参加

観光業を学ぶ地域文化系列2年生16名が地域連携事業の一環として、1月28日に那智勝浦町の勝浦漁業協同組合魚市場で行われた「第18回まぐろ祭り」に参加した。

まぐろ祭りには新鮮なキハタ、メバチなどのマグロ約4トが市場の約半値ほどで並び、キハタマグロの頭切りをはじめ、マクロ汁やカプト焼きなどが無料で振舞われた。

参加した生徒はオーブニングイベントからよここい踊りや日本舞踊・藤紀流の方々とともにほり音頭を踊るなど会場を盛り上げた。また、今年から設けられた新翔高校のブースでは家庭部の生徒がまぐろカツラーメンを販売し、行列ができるほどのにぎわいをみせ、大反響だった。

今回、まぐろ祭りに参加した小西知之君(2年)



は「まぐろ祭りに参加することで、多くの方々と触れ合っ良い機会となり、那智勝浦町の観光資源について実感をもち学ぶ機会になりました」と話した。

まぐろ祭りに参加する機会がありましたらぜひ今後も参加させていただき、地域の観光を盛り上げることに、観光について学ぶ機会としていきたい」と話していた。

1年生が就業体験

78事業所の協力を得て3日間

1月25日から3日間、実施した。この体験は1年生全員が地元各事業所に分かれてインターンシップ(就業体験)を

この体験は98%を了した。また、この体験が進路選択に役立つと思った生徒も86%に上った。

ほかにも、生徒は日頃の学習の大切さを感じたという結果も出ている。この体験を通して、残りの高校生活に役立ててもらいたいものである。



第5回マラソン大会

17日、第5回新翔高校マラソン大会が開催された。本年度の大会は、少し風があり寒さを感じたが天候に恵まれ実施することができた。男子は5.5km、女子は3.7kmの新宮港付近の道路で13時20分に男子出発、13時30分に女子が出発した。

災害がれき集積所がコース内にある関係で昨年度より、男女それぞれ500mほど短いコースになったが、どの生徒も授業で積み重ねてきた練習の成果をだすため懸命に走っていた。制限時間は男女とも40分間。この時間までにすべての生徒がゴールできたことは、個人の授業での取り組みが結果に結びついていると感じる。

持久走は苦手な生徒が多いが、回数を重ねると成果が目に見えて現れてくる。苦しいことの中から自分を伸ばすきっかけを見つけて努力をすることを持久走から学んでほしい。

最後になりましたが、この大会を開催するにあたり、仕事にもかかわらず、快く協力していただいた新宮港付近の企業の方々に感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

【男子】
①安田 豊 (2年3組)
②庄司啓太 (2年5組)
③岡部雅也 (1年2組)

【女子】
①高野有沙 (2年4組)
②木戸地優衣 (1年3組)
③東浦 唯 (2年1組)

先生の紹介 佐々木紀男先生



私と本校との関わりは昭和六十二年にさかのぼります。当時私は常勤講師として和歌山市から赴任してきました。

個性豊かな先生方、素直で誠実な生徒たち、また熊野地方の豊かな自然。これらが私たちを魅了させました。そして一年間があつたという間に過ぎ、それから長い年月を経て再び本校に勤務できる機会をもったのだ。

が八年前。当時は新宮商業高校。そして再編され新翔高校。新宮商業高校という名が消えてしまったことは大変残念ですが、地域から親しまれる学校であり、そして今も変わらぬ持ちほり。また、地域の方々からよい評価をいただく機会をこれからもたくさん作っていきたいと思っております。

佐藤氏は東日本大震災と台風12号での救援活動を経験し、「熊野と防災」の選択生16名に対し、その活動経験から今後の災害に対する備えについて話した。

講演では、長期間電気

生徒たちは、東日本大震災や台風12号の事前学習をして、今回の講演に臨んだが、最前線で活動する隊員の話しに強い興味を示し、防災に関する知識と意識を高めた。

最後に、自衛隊で使っているレトルト食品やコップ一杯の水で温かいご飯ができるものがあり、生徒たちは講演後レトルト食品をもらった。